

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 生物科学総合研究所

職階 教授

氏名 落合秀治

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

生物科学総合研究所のただ一人の専任教員であり、大学組織図上、直接学科には所属しておらず、学生にとってなじみのうすい存在かもしれない。しかしながら幸いなことに研究室に所属している学生は獣医学科10名、動物応用化科学科7名と他の研究室の教員一人当たりの指導数としては同等である。他の研究室から途中で移動した学生が多く、またその逆もある。聞くと他の研究室より「研究室の拘束時間が少なそう」であることを理由に挙げる学生が多いのは時代の流れであろうか。であるので、私自身としては、卒業論文作成と直接関係のうすい作業は学生にとって負担であろうと認識しているので、極力なくすようにはしている。とはいっても卒業論文はれっきとした必修単位であり最低限の実験の遂行は必須であることを学生に伝えている。卒論実験そのものが自分の人生にとって何の役に立つのであろうか、と考える学生がいるかもしれない。しかし、学生時代に「やらなければならないこと」をひたむきに実践することは彼らが社会に出たときに代えがたい貴重な経験になると私は確信している。一方、学生時代に大学での活動を最小限にすべく、教員からの指導やタスクをテキトーにながす者も極まれにいる。私は30年以上観察してきたが、残念ながらそのような者は例外なく就職活動で満足した結果を残せていない。おそらく採用担当者も学生の人間性、特に実行しなければならないタスクに対して真摯に向き合える人物であるかどうか慎重に判断しているのであろう。また、学生は多額の授業料を支払っている。この現実はいわゆる重い。私は本学学生全員にその授業料の十分もとをとって卒業してもらいたいと思っている。それは就職活動での成功に尽きるといえるし、私はこれに対し最大限に応援したい。就活期間は全力で活動してもらいたいし、悔いのない結果を残してほしい。そうして納得のいく結果が残せたのであれば、残りの時間の一部を使って研究室活動に専念してもらいたい。多彩な学生の能力・情熱に応じたきめ細やかな指導が必要であると考えます。私も学生たちと一緒に成長していきたいと思っている。

生物研は本学の共用施設であり、主に動物実験施設（感染実験、毒性実験、遺伝子組換え実験等）を行うことのできる施設である。施設を利用する者ものだけではなく、全学生が動物実験に対する高い倫理観を培ってほしいと考えている。本学の学生は何らかの形で実験動物に限らず生身の動物を扱う職業に就く者も多い。生物研では毎年施設利用者のために多岐にわたる教育訓練を実施している。私が担当する講義・実習で学びが、学生たちが将来直面する問題の解決ヒントになってほしいと願う。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物生化学	動物応用科学科	必修	2	140
動物生化学実習	動物応用科学科	必修	2	140
獣医放射線学	獣医学科	必修	2	140
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	2	140
地球共生論	獣医学科	必修	1	550

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

動物生化学・動物生化学実習は生物学と化学を結ぶ懸け橋の学問である。化学で学んだ規律正しい構造式・反応式等の基礎知識から、生物で起こる摩訶不思議な現象を説明する学問である。学生の中には化学をじゃっかん苦手とする場合があるので、比較的理解のしやすい教科書を選定した（リップンコットシリーズ 生化学）。分厚いこの教科書を半年で理解するのはもちろん困難がつきまとう。動物応用科学科の学生が興味を持つであろうセクションを厳選し、最新の情報を織り交ぜ、ちいさな話の「生化学」がなぜ大きな話の「生体の健康」に影響を与えるのか興味を引き出すよう努めたい。

獣医放射線学・獣医総合臨床実習では放射線生物学の基礎部分を担当している。物理学の知識がある程度必須である。コアキャリア準拠の教科書を指定してはいるが、この本でさえ、やや難関な印象をぬぐえない。重要なポイントは教科書以外の副教材を用いて、丁寧な解説を心掛ける。国家試験の合否は1，2問で決する場合が多い。私の担当する分野（3問）を完答できるよう問題を予想し獣医学科学生が興味を持つような講義をする。

地球共生論では全学の1年生を対象とした講義であり、本学の特色を示すの上で重要なキャリアキュラムの1つと捉えている。動物と人が地球上で持続可能な快適な環境を追求する上で学生が自ら考え判断する能力を引き出したい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

動物生化学・動物生化学実習で使用する教科書はヒトの生化学を例にとっているが、生命現象、疾病と原因因子（遺伝子疾患）を明快に解説した良書である。もちろん教科書の内容をわずか半年ですべてを理解させるのは不可能である。特に動物応用科学科の学生の興味を持つ部分に焦点を絞り、動物生体内で起きている化学反応について理解を深める。学生の理解の度合いを質問等により確認し、説明不足と感じられた場合、平易な表現で再度解説する。また、現在に至ってもコロナの終息は見えない。動物生化学実習においては担当者で協力し合い学年を6分割することで、学生が密にならず、かつ、丁寧な指導を可能にする形式を次年度は採用する予定だ。私は一部に新規の映像資料を追加して実習を実施するつもりである。学生の理解度の深度を従来と比較しその効果を見極めたい。

獣医放射線学では放射線生物学の基礎の部分を担当している。この担当部分から毎年獣医師国家試験に2～3題が出題されている。基礎部分は学生の多くの獣医学科学生が苦手とする物理学の知識が必要であるが、それでも講義内容を獣医師国家試験の過去問に関連付けると学生の関心度の増加が顕著であった。国家試験での出題の形にこだわりながら、今後出題されそうな部分を学生とともに想像しながら、活気ある講義・実習を遂行する。

地球共生論では私のトピックスは原子力発電の問題点である。原子力発電廃止か容認かは国論を二分する難しいイシューである。現在のところ正解はない。エネルギーが文明の発展に不可欠であることは疑いようがないが、再生可能エネルギーが安定供給はまだまだ時間がかかりそうである。二酸化炭素排出を伴う火力発電所の運用も将来的には大幅に減らさなければいけない課題である。各発電システムの取り巻く状況、特に原子力発電を取り巻く歴史、社会的環境、放射性廃棄物の処理問題を私が一方的に述べるのではなく、若い学生たちが正しい情報をもとに判断し、それぞれの意見を持つところに到達ことを期待する。同時に私が持つ意見が偏重しないように「正しい事実の提供」を心掛けなければならない。近年のカーボンニュートラルの原則の普及により原子力発電への関心度が再浮上している。政治や経済の状況しだい浮沈を繰り返している原子力発電であるが、原発事故、高レベル放射性廃棄物処理問題について大きな視野を持って考えてもらいたい。

（１）アクティブ・ラーニングについての取組

有

対面授業にこだわりたい。対面の距離感で学生に問いかけるように授業を進める。

（２）ICTの教育活用

無

教材について学生の理解が得られやすいように工夫したい

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

毎年同じことを繰り返すのではなく、20%くらいは最新の情報を取り入れ更新したい。

（２）学生の理解度の把握

B

小テストで定期的に理解度を確認したい。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

課題を出すことに努めているが、過大とならないよう配慮している。

（４）学生とのコミュニケーション

A

保留

（５）双方向授業への工夫

A

学生に問いかける時間を設けている。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国試は「根性」が大切です。経験者として心構えを伝授している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

批判的な部分を謙虚に受け止めている。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

不十分だった点を反省し、1つ1つ改善を心がける。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

許可を得て、他の授業のうまい教員の講義を聴講し、優れた点を取り入れる。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

成績不振者には積極的に語り掛け、問題点を浮かび上がらせる。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

効果がみられる場合とない場合がある。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

積極的に参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学費負担者の大きな期待に添えるような社会人になるように応援したい。